



<研究用試薬>

品番 AB13

企画：コラーゲン技術研修会

〒204 清瀬市上清戸1-10-1

「MCK」マウス・抗GAD65抗体測定用 ELISA

はじめに

本キットは、抗原にリコンビナントヒトGAD65を使用した。

酵素GADがブタ・ラット・ヒト間で、相同性を持つこと及びヒト用キットとあわせ基礎・臨床の両面から、IDDの解明を進めるためである。

1 測定の概要

- ・マウスの血清又は血漿中の抗GAD (Glutamic Acid Decarboxylase, 65 kDa) 抗体を、サンドイッチ法で測定。

2 キットの内容

A) 抗原固相化プレート	1枚	抗原：リコンビナントヒトGAD65
B) 酵素標識抗体（マウス用）	1.0ml	遮光
D) 検体希釈液（濃縮）	2.0ml	
E) 発色基質液	1.0ml	遮光
F) 反応停止液	5.0ml	希硫酸
G) 洗浄液（濃縮）	2.0ml	

3 試薬の調製

- ・「検体希釈液」2.0mlは、精製水8.0mlで希釈して用いる。
2～8℃で10日間保存可。
- ・「洗浄液」2.0mlは、精製水28.0mlで希釈して用いる。
2～8℃で、10日間保存可。

4 検体の取扱い

- ・検体には、血清又は血漿を用いる。
- ・長期保存は、-70℃。数日の保存は、凍結で。24時間以内の使用は、2～8℃保存で可。
- ・検体は、あらかじめ所要量を分割して保管する。凍結／融解を繰返さない。融解は、室温以下で行う。

5 操作上の留意点

- ・二重測定で行う。
- ・インキュベーションは、室温下、ゆっくり水平振蕩（150rpm）で行う。
- ・「検体」は、使用時に、各10μlを、調製済みの「検体希釈液」1000μlで101倍に希釈する。希釈倍数は、検体の濃度に応じて変える。
- ・抗体価の設定は、各施設にて任意に行う。例えば、あらかじめ健常群マウスのプール血清を用いて、この平均OD値+2SDを「1」とし、この濃度までの希釈倍数を抗体価とする。